



佛
語
發
句
八
百
題

小
嘉
善
佛
語
發
句
百
題

冬



發句八百歌冬之新

小菘菴碓嶺遺稿
碓嶺居風齋技合

十月

十月甲寅のハ名キ 夕ノリ

十月乙卯のハ名キ 夕ノリ

十月丙辰のハ名キ 夕ノリ

十月丁巳のハ名キ 夕ノリ

十月戊午のハ名キ 夕ノリ

十月己未のハ名キ 夕ノリ

十月庚申のハ名キ 夕ノリ

十月辛酉のハ名キ 夕ノリ

十月壬戌のハ名キ 夕ノリ

十月癸亥のハ名キ 夕ノリ

神無月

松竹
竜昇
柳加
碓嶺
柴人
流芳
音人
碓嶺

小六月

小春

初冬

朝の露も... 夕の霞も... 小六月... 小春... 初冬...

江三 圭丘 李曠 志竹 緣雨 梢月 可世女 山曉 確嶺 茶靜 祝鶴 鷺秋

冬ま

玄猪

神送

冬ま... 玄猪... 神送... 神送り... 神おくり

護岳 晚翠 青山 文里 瓜齊 一其 白雅 夜白 梅糸 半月 一具 拾家

神算

月とりの入るるあれは神送る
とくたつとつあまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る

李葉
椿葉
確嶺
杜鰲
文里
祝鶴
嶺基女
文之

神族

あまの神族
あまの神族
あまの神族
あまの神族
あまの神族
あまの神族
あまの神族
あまの神族
あまの神族
あまの神族

應吏
一本
凡齊
共山

神迎

あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎
あまの神迎

其山

達人息

大ねもあまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る
あまの神送る

志竹
嶺基
樂齊
萩哉
一本
由誓
一具
汰隻
秀岱
嶺基
梅成
双鳥

御命講

あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講
あまの御命講

十夜

時雨忌

新古今の御事... 夕陽の暮れ... 人の歌の... 梅の... 飯俵... 逸淵... 碓嶺... 風齋... 曲江... 富鷹

富鷹 曲江 風齋 碓嶺 逸淵 飯俵 梅禎 凡齋 雅嶺 一吳 河梁 春鏢

芭蕉忌

御取越

夷講

初時雨

お正月... 乙未... 由誓... 一吳... 錦秋... 戎寛... 碓嶺... 連山... 文之... 李葉... 雀豊... 千春

旬光 乙居 由誓 一吳 錦秋 戎寛 碓嶺 連山 文之 李葉 雀豊 千春

時雨

そら〜れ降ての降の名は河月
空〜れ降る〜降るのまき木
降〜れ降る〜降るのまき木
山〜れ降る〜降るのまき木
山〜れ降る〜降るのまき木
山〜れ降る〜降るのまき木
山〜れ降る〜降るのまき木
山〜れ降る〜降るのまき木
山〜れ降る〜降るのまき木
山〜れ降る〜降るのまき木

確嶺 思雄 錦秋 種好 護樂 素洲 朗汀 護岳 梅禎 文翼 野月 秀岱

又時雨

ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木
ゆ〜れ降る〜降るのまき木

文中 凡齊 確嶺 梅花 晚翠 嶺齊 凡齊 律調 桃垣 月坡 多代女 柳向

小夜時雨

少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木
少〜れ降る〜降るのまき木

冬雨

あの後ハ後々句よ動をわね荒
海をいづれ海——うらやあられ
せんすいのまもいもまらぬおのの
影をうらやまら若の葉をゆきまの
降ゆの静をあらうらうまの
若葉は月をあらはれうらまの
ゆきもや静をあらけ——荒れ
まら——まらまら湖村のまら
まら——まら山のまらまら
別よおののゆきまらうらまの
まらまらまらまらまらまら
静静まらまらまらまらまら

古翠
梅室
孤星
墨遊
梅雪
太乙
卓池
種好
爪齊
梅花
千春
西疇

フ
四

初霜

霜

朝霜

霜夜

あつちまらうらまら——海のま
晴もまらまらまら——細のま
遠人のまらまらまら——あつちのま
静——まらまらまらまらまら
まら——まらまらまらまらまら
うらまらまらまらまらまらまら
静もまらまらまらまらまらまら
静静まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
静静まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
静静まらまらまらまらまらまら

太乙
爪齊
碓嶺
大江
月底
素洲
秀武
李葉
蓬流
雪窓
墨遊
爪齊

六

霜柱

いつの川に大蛇の舌やをねけら
山柳の小葉をりやをねけら

九起

霜牙

山吹の葉をりやをねけら
山吹の葉をりやをねけら

西馬

霜草

山吹の葉をりやをねけら
山吹の葉をりやをねけら

乙居

霜枯

山吹の葉をりやをねけら
山吹の葉をりやをねけら

茶靜

初水

山吹の葉をりやをねけら
山吹の葉をりやをねけら

有節

氷

研き中 鏡のやうにまじりし水
雪のやうにわらわらした水

茶靜

氷

研き中 鏡のやうにまじりし水
雪のやうにわらわらした水

卓即

氷柱

研き中 鏡のやうにまじりし水
雪のやうにわらわらした水

佛兄

鐘氷

研き中 鏡のやうにまじりし水
雪のやうにわらわらした水

南強

しらきりの原に 一とあり入るる
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は

秀 千 立 文 錦 思 種 甫 頂 文 南
水 春 宇 志 秋 雄 好 水 雨 中 月 強

雪見

しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は
しらきり原の所 梅は 春は

志 梅 秀 白 爪 確 宜 一 飯 卓 江
水 花 代 雪 赤 宜 宜 宜 宜 宜 宜

雪催

垣始を新よ足まら申を催ひ
空のけしき雪層屋吹雪を催ひ
朝よけしき雪のあけ申を催ひ
中よけしき雪のあけ申を催ひ
暮よけしき雪のあけ申を催ひ
夜よけしき雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ

文 野 梅 鷺 河 梅 三 嶺 一 太 江 思
雪 窓 秋 梁 糸 惠 齊 具 拳 三 雄

雪礫

雪丸

雪轉

雪吹

小雪

けしきのくもり雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ
雪のあけ申を催ひ

梅糸女 護岳 梅嶺 黄山 夙齊 碓嶺 文翼 孤星 里稔 梅積 律調 太詔丸

雪

雪車

雪の日はすくすくはるる雪車の音
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を
ついでに雪の音をきいて雪の音を

白光
嶺基女
於彦
太拳
九起
空外
三恵女
秀依
玄梁
遷流
具
風齋

棧

巽

正歌

水枯

雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく
雪の外の山に雪の音をきく

碓嶺
尚日
野月
江翠
南強
碓嶺
南水
碓嶺
梅雪
野月
瓜齋
碓嶺

冬構

冬籠

冬調

新柳り列る湯るり 冬籠
 とけりつゝもゆる湯るり 冬籠
 種もほいさうさうさうさう 冬籠
 つまらぬ山もさうさうさう 冬籠
 井もさうさうさうさうさう 冬籠
 いぬさうさうさうさうさう 冬籠
 秋柳の柳さうさうさう 冬籠
 春の柳さうさうさうさう 冬籠
 川もさうさうさうさうさう 冬籠
 柳もさうさうさうさうさう 冬籠
 雪のさうさうさうさうさう 冬籠
 柳もさうさうさうさうさう 冬籠

冬代女 緑雨 爪齋 律調 大江 野月 音好 春光 南水 冬代女 一具 富鷹

茶口切

巨燧

置巨燧

好柳りさうさうさうさう 龍井酒さう
 好柳りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう
 口切りさうさうさうさう 龍井酒さう

竜井 確嶺 一具 尚日 湧滝 野月 文翼 欽哉 一朗 梅花 雀叟 一本

火桶

桐火桶

埋火

火鉢

新く作の漆もよりの火桶（火桶）
新くしき火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）
火桶（火桶）火桶（火桶）

雪窓
錦秋
欽哉
隆陽
岱年
一具
凡齊
太郎彦
杜鷺
護岳
柴人
し良

囲炉裏

湯婆

櫓

湯のこもりの戸もよりの火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）
火鉢（火鉢）火鉢（火鉢）

三都雄
茶山
寸長
有前
一具
凡齊
一具
西馬
文之
萩哉
野月
樂齊

炭

おいにまきまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜
炭のまき〜〜〜〜〜

桃垣
春国
三郎雄
潮浦
茂推
野月
秀岱
確嶺
南海
三女
多代女
晚翠

枝炭

彩炭

炭電

衾

厚衾

紙衾

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

爪齋
一具
森室
山外
嶺茶女
六梁
雀叟
柴人
音嶋
三惠女
松什
多代女

紙衣

夕乃命を尾手におりの紙衣を法
おりの紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法

晚翠
太翠

布團

夕乃命を尾手におりの紙衣を法
おりの紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法

野巢
卓池
確嶺
里院
原兩
荻哉
孤白
鷄周
吳

頭巾

夕乃命を尾手におりの紙衣を法
おりの紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法

一

尺袋

夕乃命を尾手におりの紙衣を法
おりの紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法

蓬陽
晚翠
梅糸女
卓池
瓜齋
確嶺
由誓
嶺脊
瓜齋
月底
春國
太華

寒

夕乃命を尾手におりの紙衣を法
おりの紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法
紙衣を尾手におりの紙衣を法

十五

鞍

秀岱 雨獲 嶺茶女 文翼 野月 梅糸女 焉哉 小奥 爪存 碓嶺 祝鶴 爪存
 秀岱 雨獲 嶺茶女 文翼 野月 梅糸女 焉哉 小奥 爪存 碓嶺 祝鶴 爪存

冬 日

志竹 三恵女 錦石 桃垣 爪存 吞椎 可母女 連山 匠存 赤彦 林普 桃垣
 志竹 三恵女 錦石 桃垣 爪存 吞椎 可母女 連山 匠存 赤彦 林普 桃垣

冬 月

志竹 三恵女 錦石 桃垣 爪存 吞椎 可母女 連山 匠存 赤彦 林普 桃垣
 志竹 三恵女 錦石 桃垣 爪存 吞椎 可母女 連山 匠存 赤彦 林普 桃垣

冬田

みづの月をいりて 梅赤いけり
つらねもあまの けしき 冬田
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき

瓜 芥 護 樂 茨 哉 梅 雪 碓 嶺 梅 室 好文 由 誓 三 惠 女 瓜 芥 河 梁 小 松

冬夜

冬空

冬山

みづの月をいりて 梅赤いけり
つらねもあまの けしき 冬田
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき

瓜 芥 護 樂 茨 哉 梅 雪 碓 嶺 梅 室 好文 由 誓 三 惠 女 瓜 芥 河 梁 小 松

冬海

冬川

みづの月をいりて 梅赤いけり
つらねもあまの けしき 冬田
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき
きりもをえりて 冬田のけしき

花 亭 十 扇 金 石 露 山 仙 巖 器 椎 華 月 漣 山 淨 水 銀 杏 花 亭 桃 垣

山 眠

冬 野

枯 野

朽 野

山 福 切 々 々 々 の 桂 尾 漸 々 々 々
裁 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
石 地 冠 冠 冠 冠 冠 冠 冠 冠 冠 冠
ま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
史 風 の カ 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
枯 野 路 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
か 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
の 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
一 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

道 乐 護 乐 古 来 梅 空 確 菴 淨 水 鬼 柳 仙 哲 三 惠 女 大 梅 道 乐 小 松

フユ

落 葉

木 葉

朽 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
親 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
の 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
路 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
藤 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
着 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
群 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
押 流 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
表 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

知 秋 識 月 羨 晴 逸 昇 苞 美 稍 雨 有 柳 松 塘 淨 水 鬼 柳 南 川 牧 雄

六

散紅葉

葉細けしきなりけり
かきぬくもきなくも
てをよみてあそぶ
てのりなむとも
かきぬくもきなくも
てをよみてあそぶ
てのりなむとも
かきぬくもきなくも
てをよみてあそぶ
てのりなむとも

水雄

香芸

世外

枯相

千船

梅室

好文

道乐

三惠文

砂月

柳叟

金石

枯拍

冬木立

冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立
木立の冬木立

帰花

冬櫻

冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻
花の冬櫻

樂齊
白雅
さう女
石菜
確嶺
晴左
桃李
春園
蓬陽
夙齊
嶺齊

枯柳

秋の風の小さき—とぞゆくやまはるる
柳のゆくは過ぎ—町のさき—に
本母さの向い—とぞゆくやまはるる
とのまれば—まれば—つらやまはるる
川橋のふた筋—の—れやまはるる
葉のるやまはるる—の—るやまはるる
葉のるやまはるる—の—るやまはるる
葉のるやまはるる—の—るやまはるる
葉のるやまはるる—の—るやまはるる
葉のるやまはるる—の—るやまはるる
葉のるやまはるる—の—るやまはるる
葉のるやまはるる—の—るやまはるる

凡齊
身代女
映門
梅室
山骨
由誓
爲山
梅系女
可大
碓岩
露丸
護岳

茶花

山茶花

山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる

ノ五

枇杷花

八ツ花

山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる
山茶花の赤—とぞゆくやまはるる

氏賀
小真
く
凡齊
碓岩
八鶴
種好
新曉
文仙
一
碓岩
嶺基女

廿

冬牡丹

けりあゝ散るやうあり花は子
寝るをさゝるゝ垣根のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
六つをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは

雪窓 一具 匠 彦 女 梁 古 翠 文 翼 萬 嶺 大 乃 祝 鶴 硯 水 氏 賀 嶺 茶 女

寒菊

水仙

石菖花

枯尾花

あゝ山のけりあゝ散るやうあり
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは
をうをよほし柳のうらまは

川 芥 確 嶺 澹 叟 幸 女 悠 平 凡 齊 確 嶺 鵬 居 練 雨 文 中 潮 浦 三 惠 女

枯薄

う水をそふぬ後の巫女は朽葉を
二軒とは赤も苔をひく水もま
中をハハ赤も苔をひく水もま
けく山の水の中の水も
葉のま水も苔も枯も水の居
う水葉のうらう水通
枯も一戸通も水も水も水
うけおる枯も水も水も水
葉枯も水も水も水も水
水も水も水も水も水も水
水も水も水も水も水も水
水も水も水も水も水も水

碓嶺 八鶴 廬雪 而右 北住 器椎 小臭 梅雪 有節 碓嶺 帛曉 爪奇

枯芦

枯蓮

枯菊

枯葎

枯草

ふれまは赤も苔の何をもくまの
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水
う水も水も水も水も水も水

碓嶺 其山 梅系女 梅窓 碓嶺 映門 有節 風奔 東水 可夫 千春 乙良

冬草

麦蔴

大根引

うねのつゝまもるし中 元後のまを
 伸くはんとつりけ みのくは
 ぬるくつむつゝ くるり 冬の子
 春のふゆちいしきしきりしう山
 日と地とつゝるるる 春のふゆは并
 つゝ中しきまもるしきまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 引のつゝち根引まもるるまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 とむちく大根まもるるまもるる

月庭 匠 芥 江 月 葛 古 文 翼 由 誓 確 嶺 卓 郎 塞 馬 乙 良 宇 逸 吳 明

蕪

風呂吹

干菜

葱

大根引まもるるつゝあつゝ旬
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 月まもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる
 ちつゝまもるしきまのまもるる

蒼 虬 夫 外 雄 左 上 手 子 本 馬 別 蘭 冰 住 那 平 何 公 梨 山 由 誓

經代守

霖

牡蛎

くさりとやんそくくう 萬もろけ
くさりとりのぬねもろく不味か
夫程の大程あつてふ系細代守
月あより暮る榊もろく新らもり
橋ねりあやんおもあつて細代守
霖清や礫もろりふもろりぬ
霖清よるくく月れをくくく
ふーつけや活ひー魚のをを養ふ
ふーつけや川瀬のまきおの喜
ありきやの語もろくまきく日初
蟻もろて目もろくまきく陽り
かきく買ひくく午の白きくく

乙良 和春 可厚 巖馬 飯試 玩甫 魚魯 也翠 風朗 為山

生海鼠

水鳥

浮寐鳥

生海鼠さくかろくふら子とまてく
ワタシーき一市申しあつぬあま
日記の局の部あふ生海鼠
あまやあふあまをてろくく
あまをてあまをあまを
あまをてあまをあまを
あまをの啼やあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを
あまをてあまをあまをあまを

梅室 桂素 茂推 卧雲 池柳 友一 梅室 雪居 玩醉

廿四

野鳥

アツクツ海のまじまや山狭ちり
むらもき磯の海陸八月あきり

爪裔
多代女

村ふもく河へ流りて馬刀の光

梅室

夜も侍もまなびたり むらあき

嶺齊

あふいまは夕陽を赤く河あき

野月

茶あふくまよくつらり川あき

護樂

あつてあまきたりて川あき

茶静

あをやまのまきまき人い 歌

逸淵

あをのまきまき 毎まんあき 枝

卓池

あつてあまきたりて川あき

守人

あををくやまはけふ人多きまき

露泉

本のくひをのりあをまきあまの歌

伴兄

木兔

川鳥

鷓鴣

冬 罫

十一月

列宿あきすてハルはあきあき

鳳兮

休むもすれくあきよりあき

幸女

りくくををくへらくくきき

文之

あきの宿をあきあきあき

九万岐

ほくあきの散路あきりぬきき

爪裔

あき三にらてくあきあき

確嶺

あきのあきあきあきあき

古翠

あきのあきあきあきあき

喜節

あきのあきあきあきあき

雀史

あきのあきあきあきあき

鷺眠

あきのあきあきあきあき

多代女

あきのあきあきあきあき

晚翠

神樂

御火焼

里神樂

修るるもぞうてそらうらうらつと
 ろもきも衆もさるに神楽は
 あくもかきえゆかきし神楽は
 琴もさうきさうの神楽は
 いつゆさうきさうの神楽は
 杉山の百もさうり神楽
 里神楽さういけさうさう
 後日りの神楽さうさう
 ともさうの神楽さうさう
 新島のさうさうさう
 正月の神楽さうさう
 神楽焼くわい代替し神楽の

梅系女 露泉 高嶺 律調 龜友 万像 嶺基女 尹代女 秀岱 逸淵 爪杯 嶺基女

吹草祭

子燈心

西市

街霜月

正しき事やこの時々の旅
 むもさうきさうさうさう
 吹草祭のさうさう
 子燈心のさうさう
 西市のさうさう
 街霜月のさうさう

空外 嶺志 晚翠 白露 暹流 為山 飯袋 旬光 好雅 三惠女 爪杯 楓下

御講

鉢扣

大師講

出たのり中よ月の瓶もゆき月
小てよはすれな人の中ゆき月
うらうらとゆねに雲なりゆき月
あふれけりやゆき月 傍りゆき
そふとそふりゆき 月傍り
よ門をけりてゆき 月傍り
やハ何おもひゆき 月傍り
月傍り 傍りゆき 月傍り
不浄あふれけりやゆき 月傍り
万々今宵の如くゆき 月傍り
新元節 あふれゆき 月傍り

太極 空外 黙池 有節 瓜芥 由誓 野月 頂雨 高嶺 野景 八鶴 晚翠

頼見在

鉢見在

けはうとゆき 月傍り
新元節の雲ハあふれゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り
新元節の中ゆき 月傍り

瓜芥 一尺 由誓 青鳩 崔叟 逸淵 林曹 卓郎 由誓 梅室 露丸 秀岱

雁

別々やも昔をさる〜お鳥引
 河〜御下おのり〜
 却〜ある新〜
 ね〜
 兼〜
 少〜
 一〜
 一〜

淡 黄 寸 硯 思 一 空 戲 雀 椿 大 嶺
 更 山 長 水 雄 具 外 蝶 更 葉 江 基 女

力草

暖鳥

鳥叫

寒苦鳥

鴛子鳴

十二月

鳥叫 冬〜
 寒苦鳥 冬〜
 鴛子鳴 冬〜
 十二月 冬〜
 十二月 冬〜

几 茶 梅 烏 大 嶺 太 由 好 一 椿 凡
 居 靜 禎 峯 乃 慕 郎 誓 雅 具 兼 芥

乙子餅

師走

臘八

御佛名

乙子餅 空外 竜昇 淡叟 露岩 杜鷺 萬嶺 確嶺 尚嶺 鵬居 尊阿 一朗 仏名や...

空外 竜昇 淡叟 露岩 杜鷺 萬嶺 確嶺 尚嶺 鵬居 尊阿 一朗 居

事始

寒入

寒内

寒月

多代女 晚翠 祝鶴 爪齋 寸長 里曉 荷竹 高嶺 梅室 爪齋 悠々 鶯居

多代女 晚翠 祝鶴 爪齋 寸長 里曉 荷竹 高嶺 梅室 爪齋 悠々 鶯居

寒雨

寒雨の音も海も静か
文里
三惠女
爪齊
鶏周
嶺存
爪齊
斥曉
爪齊
確嶺
鳥山
冷叟

寒念佛

寒垢離

72

寒聲

寒椿

冬椿

室梅

冬楳

寒聲の音も海も静か
寒椿の音も海も静か
冬椿の音も海も静か
室梅の音も海も静か
冬楳の音も海も静か

冬楳
室梅
冬椿
寒椿
寒聲

寒梅

寒竹

さびしき梅の影もよみしむらさきの
雪の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの
雪の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの
雪の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの
雪の影もよみしむらさきの

匠 齊
露 丸
民 賀
露 岩
野 童
嶺 茶
玄 梁
幸 女
爪 齧
空 外
嶺 齊

松 咲

衣 配

古 曆

煤 拵

らんずりやふらふらと
おろろろをうらやうら
さく花ともほくら
ゆりゆり梅の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの
さびしき梅の影もよみしむらさきの

秀 岱
し 居
文 里
三 恵 女
一 具
山
多 代 女
碓 嶺
由 誓
鳥 山
多 代 女
心 阿

追儼

鬼外

福内

此は排の満ちてさうり、後徳の節
様のあるまゝ、猿もさうさうに
あつめ、のけらうさうや、さうさ
序のす、机井、あつて、さうさ
と、あつて、つらう、さうさ、さうさ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
わめ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
鬼の外、梅、さうさ、さうさ、さ
人、さうさ、さうさ、さうさ、さ
神、代、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ

波文 李兼 有節 川齋 益推 戲蝶 奕彦 秀谷 碓嶺 河梁 秩哉 風齋

節季候

歳市

節季候の秋の清き夜、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ
さうさ、さうさ、さうさ、さうさ、さ

由誓 一具 尊阿 史千 女子 曾見 春騏 逸淵 千輅 梅室 天朗 由誓

餅苴 年木樵 除夜 春近

餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に
 餅苴 餅苴は門田の尾丸列に

助宣 一具 氷青 梅凝 吟霞 一肖 梅室 助宜 ちうら 守中 梅室 紫金

行年 年借 年坂

行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...
 行年 行年は... 年借 年借は... 年坂 年坂は...

田鳳 護樂 童昇 河梁 有節 碓嶺 乙居 卓池 思雄 圭五 朗

春待

山待しとくもよき物ぬる春待
若待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを
さる待中 静しと春のうらを

待竹

縁雨

五美

文之

梅室

一朗

凡齋

三恵女

文翼

風齋

雀更

多代女

春近

春隣

大晦日

大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを
大晦日 静しと春のうらを

大年

年夜

岡見

除夜

大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを
大年 静しと春のうらを

風齋

確嶺

鶇居

黃山

凡齋

河梁

三恵女

五美

秀岱

梅月

由誓

梅室

多岐のて海の川にむす海魚の陸
用舟に舟のさしよ海魚の陸
河のつとつ人さの海魚の陸
人さのはらけぬる海魚の陸

一長
護水
御爪
風齊

最上川舟中

海魚のさし舟の海魚の陸
海魚のさし舟の海魚の陸
海魚のさし舟の海魚の陸
海魚のさし舟の海魚の陸
海魚のさし舟の海魚の陸

長翠
碓嶺
翠嶺
翠嶺

多岐のて海の川にむす海魚の陸
用舟に舟のさしよ海魚の陸
河のつとつ人さの海魚の陸
人さのはらけぬる海魚の陸
海魚のさし舟の海魚の陸

翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺

山嶺の翠嶺

其の山嶺の戸を草はあけ

母のあまのあまの十子 唱

うさうさ法をいふをいふをいふ

耳子をさす

うつる力をさすのれまきの武士

槍あうきは新さす

き法うつるくよあそぬあそぬ

紫うされ材のほよざうほ

赤牡丹の江戸よりよむ玉も

山嶺の翠嶺 翠嶺

全嶺 翠嶺 嶺翠 嶺翠 嶺翠 嶺翠 嶺翠

そのの山嶺は

あまのあまの

山嶺の翠嶺

翠嶺

翠嶺

翠嶺

翠嶺

翠嶺

翠嶺

翠嶺

翠嶺 全嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺 翠嶺

侍らふに御まじりてきり 林の月
 松をみよふころよき 初ま
 侍らふに御山ま侍らるるより
 師治の御まじりて 誠おつく
 新よりまじりてあまきけつを川
 海をぬかすつけをまつて平川
 立候とす動化をまつてあはれ
 切をまつてまつてまつて 檻れ
 月御まじりて御まじりてまつて
 侍の侍らるるにまつてまつて
 侍らるるにまつてまつてまつて
 一ツまつてまつて 芝はめ 用

嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊

まつてまつてまつてまつてまつて
 御まじりてまつてまつてまつて
 侍らるるにまつてまつてまつて
 深い樹まつてまつてまつてまつて
 御まじりてまつてまつてまつて
 一徳のまつてまつてまつてまつて
 中をまつてまつてまつてまつて
 まつてまつてまつてまつてまつて
 御まじりてまつてまつてまつて
 まつてまつてまつてまつてまつて
 御まじりてまつてまつてまつて

嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊 嶺 齊

